

令和6年度 学校評価

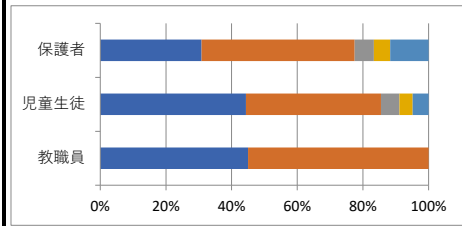
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | 考察 |
|--|--|---|
| 1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など) | 2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。 | STAEM教育を意識した授業実践や委員会活動を中心に子ども主体の「スマイルチャレンジプロジェクト」等様々な企画を実施した。また地域学習や親子道徳等、心を育てる授業を実践してきた。保護者や児童の9割が肯定的評価をしている。スポーツテストの結果から体力に関することは課題なので体育の授業等を工夫していく必要がある。 |
| | | |
| (1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進 | | |
| 3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など) | カリキュラムマネジメントで地域に関わる学習を一貫して実践している。特に地域の祭りである「浪漫フェスタ」への取組は児童が町内の実行委員会に参加するなど学校全体を巻き込みリアルな課題に取り組んでいる。保護者、教職員の肯定的評価は9割を超える評価であるが、児童は、「よりよくするため」という点に自己評価を低く設定していると思われる。今後、児童の学習活動をいかに価値づけていくかが課題である。 | |
| | | |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。 | | 学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。 |
| | | 総合的な学習の時間や各教科の授業で「協働的な学習」(グループ学習や話し合い活動)を意図的に実施してきた。保護者、児童も9割近くが肯定的評価をしている。しかし、学習方法を選択する等の自己調整学習は算数やまとめ学習等は一部取り入れているがまだ、授業の工夫が必要である。今後、自己調整を意識した授業実践が課題である。 |
| (2) こども一人一人を尊重した教育の推進 | | |
| 6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。 | 7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。 | |
| | | 「支えてもらえる雰囲気」「共に学び合っている」という項目では児童、教職員とも9割が肯定的評価であるが、保護者は8割強という結果である。親子道徳や教育相談、協働的な学習等で効果は認められるが、保護者回答で「わからない」が1割強あり、周知に課題がある。学校だよりやHP等で情報提供をしていく。 |
| (3) 最適な教育環境の整備 | | |
| 8 安全・安心な園づくりの推進 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育(生活・交通・防災など)に取り組んでいると思いますか。 | 9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。 | 始業式、終業式等の一斉下校、水防引渡避難訓練等の定期的な防災、防犯訓練。生活委員会等からの啓発運動等を実施した。保護者、児童、職員も9割を超える肯定的評価をしている。様々な行事授業等で協働体制があることは強みである。今後もPTA、地域の方と協力した教育活動を展開していく。 |
| | | |

(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

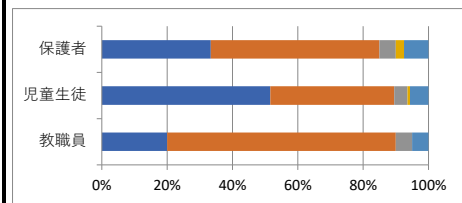


保護者向け教育相談は夏休みに行い、年3回、学級担任による個別面談を実施している。SCやSSWにつなげ必要な教育相談も実施し全体として8割の肯定的評価を得ている。また、生活委員会を中心に校則の見直し等を行い、児童の意見を反映させる場を設定している。しかし、保護者の「わからない」が1割強あり、今後、相談等の発信周知が課題である。

独自項目

11 学校独自項目

11 本年度、以前に比べ子どもは、自ら主体的に行動できていますか。



各学年が学校行事等に積極的に取り組む姿が見られた。すべての委員会から企画実行され9割の子どもたちが主体的に行動できたと回答している。地域、公民館、都市デザイン課、ルーテル大学等を招き専門的な深い学びができた。保護者も8割以上がよい回答となっているが1割が「わからない」の回答でありより発信力が必要である。

来年度の具体的な取組について

- ・いじめ等や子どもの権利を守ることにに関して、普段の様子の見取りだけでなく、毎月のアンケートや年3回の教育相談等を行い確実な児童の実態把握に務める。
- ・「STEAM教育」を通して「探究学習」を充実させ、地域、産学官連携を中心として実社会とシームレスな資質・能力を育てる研究を推進する。
- ・子どもたちが主体的な学習等を行うため、委員会活動の充実や自己調整学習（個別最適な学び）に取り組む。
- ・体育の授業の充実や委員会活動等の企画を通して体力づくりの向上を実践する。
- ・カリキュラムマネジメントを通じた「地域学習」や「学校行事」等についてHPや通信等を通して保護者等に情報開示したり協力を求める等していく。
- ・特別支援教育の取り組みや教育相談等について学校だより等で保護者地域に周知していく。

小中学校関係者評価

- 登校班では、列歩行や挨拶に改善が必要である。
- タブレットをうまく活用し、主体的な学習を行っている。子どもたちが楽しく協働的に学んでいる姿がある。
- 地域を学ぶことによって地域に誇りを持つことにつながる。Steam教育は引き続き実践してもらいたい。
- 体力向上が課題である。授業での工夫や遊びなどを含めて、多くの運動の機会をつくってもらいたい。
- 不登校傾向の子どもたちに寄り添っておられることがわかる。今後も様々なつながりを作ってもらいたい。